

海外へ進出する 日本人・企業のための 爆弾テロ対策

Q&A



湾岸戦争の発生以来、海外におけるテロ対策について多数の照会が外務省に寄せられています。世界各地で頻発する爆弾テロについては、これまでも、特に邦人・企業が被害者となる事件が発生しており、各人・各企業がそれぞれの状況に応じた対策を十分に講じておくことが望まれます。このQ&Aでは、爆弾テロ対策について平素の措置から、ケースごとの対応策までを概括的にとりまとめてみました。

外務省

邦人・企業が被害を受けた最近の主な爆弾事件

- 1 バグダッドの国連本部爆破事件(2003年8月、イラク)**

8月19日、バグダッドの国連機関の本部が入っているホテルで爆発が発生し、20名以上が死亡、約100名が負傷。日本人国連職員1名が負傷。
- 2 リヤド市内における爆弾テロ事件(2003年5月、サウジアラビア)**

5月12日、リヤド市内にある外国人居住区2カ所に爆弾を搭載した車両がそれぞれ突入して爆発。20名以上が死亡、約200名が負傷。日本人3名が負傷。
- 3 バリ島における爆弾テロ事件(2002年10月、インドネシア)**

10月12日、インドネシア・バリ島のディスコにおいて爆発事件が発生し、202名が死亡、300名以上が負傷。日本人2名が死亡、13名が負傷。
- 4 在ケニア、タンザニア米大使館爆破事件(1998年8月、ケニア及びタンザニア)**

8月7日、ナイロビ及びダル・エス・サラームの米国大使館付近で爆弾が爆発(死者250名以上、負傷者約5,000名)。このうちケニアでは邦人1名が軽傷。
- 5 中央銀行爆破事件(1996年1月、スリランカ)**

1月31日、コロombo市中心部に位置するスリランカ中央銀行に爆弾を積載したトラックが突入、建物は大破(死者80人、負傷者1,300人以上)。付近のホテルに宿泊していた邦人6名が軽傷。
- 6 レストラン爆破事件(1995年12月、ロシア)**

12月20日、モスクワの日本料理店のトイレ内に仕掛けられた爆弾が爆発し、店内に損害。
- 7 エジプト大使館爆破事件(1995年11月、パキスタン)**

11月19日、イスラマバードにあるエジプト大使館が爆破され、建物は完全に崩壊(死者13人、負傷者60人)。日本大使館の館員3人が負傷、同事務所・公邸にも多大な物的損害。
- 8 フィリピン航空機内爆破事件(1994年12月、日本)**

12月11日、沖縄県南大東島付近上空を飛行していたマニラ発セブ経由成田行きのフィリピン航空機内で爆弾が爆発。邦人1人が死亡、6人が負傷。
- 9 ミラノ爆弾爆破事件(1993年7月、イタリア)**

7月27日、ミラノ中心街近代美術館付近において自動車爆弾が爆発し、日本企業数社の事務所の窓ガラスに被害。
- 10 ロンドン金融街爆弾爆破事件(1993年4月、英国)**

4月24日、ロンドンの金融街でダンプカーに仕掛けられた大型爆弾が爆発し、邦銀等の事務所に物的損害。
- 11 ボンベイ連続爆破事件(1993年3月、インド)**

3月12日、インドのボンベイにおいて連続爆破事件が発生し、爆破ビルに隣接したビルに入居していた日本企業事務所に物的損害。
- 12 世界貿易センタービル爆破事件(1993年2月、米国)**

2月26日、ニューヨークの世界貿易センタービル地下の駐車場で爆弾が爆発(死者6人、負傷者1,000人以上)。邦人4人が煙を吸い込み入院。



爆弾テロ対策として、平素からどんなことに心がけておく必要がありますか？

A 爆弾テロの被害に遭わないためには、平素から、関連情報を収集・評価し、物的・人的措置を講じ、訓練を行い、爆弾が設置されないように、また爆弾が設置されても適切に対応できるようにしておくことが極めて重要です。

① 情報の収集・評価

次のような現地の治安情勢、特に爆弾テロに関する情報を正確に把握しておく必要があります。

◇我が国の在外公館、現地の治安当局、新聞等の情報を通じて、現地における爆弾テロの発生状況、犯行組織、政治背景、手口（手紙、車等を使用するのか）、使用爆弾の特徴（ダイナマイトかプラスチック爆弾か）、攻撃の対象（無差別か特定目標か）、発生時刻・場所等につき承知しておく。

◇収集した情報に基づいて、爆弾テロの直接・間接的な脅威を評価する。この際、現地の情勢に加え、日本国内の情勢や世界の他の地域の情勢がもたらし得る脅威の影響も考慮に入れる。

◇最寄りの警察等に爆発物処理班があるか前もって調査しておき、緊急時の連絡方法を確認しておく。また、爆発物発見時の避難場所についても複数のオプションを用意しておく。

② 物の面の安全

爆弾テロ防止のためには、事務所や工場を設置する以前の段階から、次のような考慮を払っておく必要があります。

◇事前調査を十分に行い、テロリスト等の攻撃の対象となるおそれのある施設の近辺には事務所等を設置しない。特に共同使用のビルに事務所を設ける場合には、このようなおそれのある企業等の事務所の近隣はできるだけ避ける。

◇車両に仕かけられた爆弾によるテロを防止するため、利用する出入口数はできるだけ少なくし、車両通行用と歩行者用を区別しておく。駐車場は可能であれば社員用と外来用を区別し、外来用は事務所建物から離して設置する。また、社員用には監視員を配置する等警備対策を講じる。

◇事務所内に爆弾を設置されないよう人の移動を規制するため、事務所内は来訪者の立入りを認める区画と社員のみが立ち入ることができる区画に厳格に区分する。人物の出入規制に当たっては、TVカメラやIDカード読取器等の機器の設置を考慮する。

◇爆発時の被害を抑えるため、必要に応じガラス窓には飛散防止テープを貼付するとともに、爆発物飛来防止のため金網又は幅の狭い鉄格子を取り付ける。

◇爆発物の発見を容易にするため、ロビーや事務所等の外周にはできるだけ植え込み等を設置しないことが望ましい。

◇爆弾テロの脅威が極めて高いときには、車両爆弾による攻撃を阻止するためのコンクリート・ブロック等の設置を考慮する。

③ 人の面の安全

爆弾を設置させない、また、設置されても早期に発見するため、次のような措置を講じておきます。

◇来訪者及び手荷物のチェックを確実に行う。必要に応じ金属探知機（雷管探知のため）を使用する。

◇社内外の整理整頓を常時徹底するよう心がける。

◇社内外の死角をなくし、見回りを頻繁に行う。

◇外扉への爆弾設置、外扉の側での車両爆弾防止のため外回りについても見回りを行う。

◇可能ならば、事務所等に隣接する道路上の駐車は禁止する。

◇社員全員が不審物（放置荷物、手紙、小包等）に対し注意するよう平素からよく教育しておく。

④ 安全訓練

爆破予告があった場合ないし爆発物容疑物件を発見した場合に備え、次のような準備・予行訓練を十分に行っておくことが重要で
す。

◇爆破予告（電話・手紙）があった場合ないし爆発物容疑物件を発見した場合の行動基準を定め、全従業員に周知する。

◇爆破予告電話を受ける可能性のあるすべての社員（特に電話交換手）に対し、爆破予告電話への対応要領を周知し、演習を行う。

◇実際の場合も混乱に陥ることなく速やかに避難できるよう避難訓練を反復実施する。



爆破予告電話に対してはどう対応したらよいのですか？

A 爆破予告電話には単なる嫌がらせから、真の脅迫、さらには予告まで様々なものがあります。このような電話がかかってきた場合、いたずらにパニックになることなく、一応信憑性のあるものと仮定して、適切な対応を行うことが被害を最小限に食い止める上で極めて重要です。このためには、爆破予告電話への対応を平素から社員に周知徹底させ訓練を行っておくことが重要になります。

また、脅迫内容を正確に把握し、後日の捜査に役立てられるよう電話録音装置を用意しておくことをお勧めします。具体的な対応要領は次のとおりです。

① 電話を受けた時点での対応

◇電話を受けた人は余裕があれば、近くにいる人にメモを渡すことにより、警備担当責任者に、今、脅迫電話を受けている旨を連絡する。

◇できれば電話を録音しておいたほうがよい。

◇まず、冷静に対応し、通話内容を正確に聞き取ることが何よりも重要である。

◇通話を中断させず、質問等により会話を引き伸ばし、できる限りの情報入手（特に爆発物を仕かけた場所、爆発時刻）に心がける（P. 5のチェック・リストの質問事項を参照）。

◇また、通話後直ちに犯人との会話の詳細を記録しておくこと、後日の対応に役立つ（P. 5のチェック・リストの関連情報を参照）。

② 脅迫の評価

◇警備責任者は、脅迫の内容について分析し、その真偽を判断し、退避すべきか否か、警戒を強化すべきか否か等を決定することになるが、その決定は迅速に行う必要がある。

◇その際、明らかにいたずらと考えられる場合を除き、一応本物の可能性があると考えて対応すべきであり、まず、社員全員を安全な場所に避難させ、現地警察に爆発物の捜索を依頼するのが無難な対応といえる。

◇真偽の判断に際しては、会社に対する恨みや前兆の有無等関連の出来事を含め総合的に考えるべきである。

脅迫電話チェック・リスト

<爆破予告>

1. 質問事項

- (1)爆弾はいつ爆発しますか。(2)現在どこにありますか。
(3)どのような形をしていますか。(4)どんな種類の爆弾ですか。
(5)どうすれば爆発しますか。(6)あなたが爆弾を仕かけたのですか。
(7)なぜですか。(8)あなたは誰ですか。

2. 脅迫に使われた正確な言葉

3. 相手の性別、人種、年齢

4. 電話がかかってきた電話番号、電話時間の長さ、日付、時間

5. 通話終了後、直ちに次に報告すること。電話番号：〇〇-〇〇〇〇

(関連情報)

(1)相手の声

落ち着いている	鼻にかかっている
怒っている	どもっている
興奮している	舌がもつれている
ゆっくりしている	しわがれ声
速い	深い声
低い	耳障りな声
大きい	せき払い
笑っている	息遣いが荒い声
泣いている	かすれ声
普通	音色を使っている
はっきりしている	なまりがある
はっきりしない	聞き覚えがある

聞き覚えのある声である場合、だれの声のようですか。

(2)背景の音

街頭の雑踏	工場の機械音
食器の音	動物の声
人の声	はっきり聞こえる
拡声器音	静か
音楽	近距離電話
住居の雑音	遠距離電話
自動車の音	電話ボックス
事務所機械音	その他

(3)脅迫の言葉

教養ある言葉遣い	支離滅裂な言葉遣い
乱暴な言葉遣い	テープ吹き込み
非論理的	脅迫者によるメッセージの読み上げ

(4)その他

※本表を電話の下に置いておくこと

③ 避難

避難に当たっては、落ちついて整然と避難することが最も重要です。あらかじめ責任者は、次の措置を講じておきましょう。

◇避難計画をたて、関係者全員に周知し、それに基づいて訓練を行い、その都度欠点を修正する。

◇避難の態様（全員か一部か、屋外か屋内か）に応じたシグナルを定めておく。

◇避難経路（複数）を明確に示しておく。

◇避難統制のための補助者を指定しておく。

◇避難先（複数）を決め、その安全を確認しておく。

また、避難に当たっては、次のことが大切です。

◇ハンドバッグ等私物は、すべて室内に残さず、仮に残しても取りに戻らない。

◇机の引き出し、扉等にはカギをかけない。

◇避難の前に、平素職場にない物があれば速報する。

◇すべての電気器具のスイッチを切る。

◇すべての窓、ドアは開けたままにしておく。

④ 事後対策

爆破予告が本当であった場合はもちろん、仮に爆破予告電話があり避難等を行ったにもかかわらず、爆発物が発見されず、また、爆発も発生しなかった場合にも、その後終わったからといって安心して忘れてしまうのではなく、このようなことが発生したことに対する原因究明の努力を行うべきです。また、次の点についても念のため措置をとっておく必要があります。

◇出入者、受理郵便物、小包等の検査を強化する。

◇外周道路における路上駐車を禁止する。

◇社員の自宅周辺、通勤途上の警戒を強化する。

Q 爆発物容疑物件を発見した場合は、どう対処したらよいのですか？

A 爆発物の取扱いでミスを犯すと生命にかかわる重大な結果を招くこととなります。このため、爆発物の疑いのある不審な物品を発見した場合には、次のことに注意しましょう。

◇これに触ることなく、速やかに容疑物件から遠ざかり、警察等関係当局へ通報し、事後の処理を依頼する。

◇容疑物件が小さくとも軽視しない。指サックやライター大の爆弾で人を殺すこともできる。

◇容疑物件は一つだけとは限らない。犯人は分かりやすい所に一個を仕かけ、他の爆弾から注意をそらせ、より大きな被害を発生させようと考えていることがある。

Q 小包・手紙爆弾に対してはどう対応したらよいのですか？

A 「小包爆弾」及び「手紙爆弾」の対策に当たっては、配達・受領時点での点検により、爆発物の疑いがあるか否かにつき早期に発見することが重要です。

不審物の疑いのあるときは特に取扱いに注意し、持ち主、発送人に問い合わせるなど不審点の解明に努め、不審物と判断されるときは、爆発物容疑物件発見時の措置に従うことが必要です。

① 小包・手紙爆弾等の送付方法等

「小包爆弾」及び「手紙爆弾」の送付方法としては、郵便、宅配便、直接届けられる場合が考えられます。

◇郵便による場合：開披した瞬間に爆発するよう調整されており、受取人の不用意、不注意、無意識等に乗ずる。

◇宅配便の場合：手紙や小包の引渡し時間を特定できるため時限起爆装置の使用が可能であり最も危険である。

◇直接届けられる場合：手紙や小包を取り上げた瞬間に爆発するように仕組まれている可能性、若しくは開披した瞬間に爆発する方法がとられている可能性があり、対象を直接ねらえることから、テロリストの中にはこの方法をしばしば使用するものもある。

② 小包・手紙爆弾等の特徴

＜不審物の疑いのある物＞

◇差出人が未知の人の場合や、差出人の住所が記載されていないもの。

◇あて名や住所の誤字又は誤記のあるもの。

◇重量に違和感のあるもの。

そのほか P. 8の「小包及び手紙爆弾識別のためのチェック・ポイント」を参照してください。

③ 爆発物処理隊が到着するまでの措置

◇小包や手紙爆弾が直接届けられた場合：触ることなく、遠ざかる。

◇郵便や宅配便によることが明らかな場合：人の出入りがない場所

に保管する。

◇いずれも、必要により避難する。

小包及び手紙爆弾識別のためのチェック・ポイント

<外見>

- ・住所・氏名等の記載内容、消印、切手等が不自然
(差出人の住所・名前の欠如、差出人住所と消印の相違、切手の貼り過ぎ等)
- ・包装が不自然
(稚拙な包装、テープやひもを多用し必要以上に頑丈等)
- ・必要以上に「親展」、「至急」、「取扱い注意」、等の表示
- ・ワイヤー、ひも等の突出及び油状のシミや汚れ

<臭い>

- ・靴墨、アーモンドのような臭いや芳香

<重さ>

- ・異常な重さ(軽さ)や重さのバランスに片寄り
- ・手紙爆弾の場合には、通常の手紙に比し、重く、厚みあり

<感触> *ただし、強く押ししたり、振らないこと

- ・不自然な固さや弾力感
- ・突起物や塊状物質の存在感
- ・内容物にガタつき
- ・時計のような音や液体の音等異常な音

Q 自動車に仕かけられる爆弾に対する対策はどうしたらよいのですか？

A 爆弾攻撃の実行者は自動車に爆弾を仕かけることも多く、会社や住宅における爆弾対策とともに自動車に仕かけられる爆弾対策にも、次のように心がけることが必要です。

◇夜間、長時間路上や警備員のいない駐車場に車を放置することはできるだけ避ける。また、自宅や事務所のガレージは外部からの不審者が近づけないよう工夫する。

◇車に乗り込む際には、車体を一巡して異常がないか確認する。

この際、特にタイヤ周辺、車体下部、車内に異常がないか確認する。

◇さらに詳細な点検を行う場合には、P. 9の「車両設置爆発物点

車両設置爆発物点検方法

点検順	点検項目	点検要領	着眼点
1	車 外	①車体を一巡して異常がないか確認 ②車体の隙間（例えばボンネット、ドア、トランクと本体）に名刺又はカードを差し込み、くまなくチェックする。	コード類の端末はないか？ 車内は荒らされていないか？ 異物、異常なひっかかりはないか？
2	タイヤ周辺	①タイヤの状況及び前、後方の接地部の点検 ②泥よけ部分（ボディー）内部の点検 ③サスペンション部分の確認 ④タイヤホイールがついている場合はホイール内部も確認 ＊ホイールを開ける場合はまず隙間を目視で確認、ついで名刺等を差し込んで異常の有無を確認し、ホイールを開ける。	目視後手探り点検 ホイールを開ける際は、一気に開けることなく、まず半開きにし、異常の有無を確認した後取り外す
3	車体下部	①まず目視で確認 ②ついでボディー内部を手探り点検 ③バンパーの点検 ④マフラーの点検	必ず奥のほうまで手を入れて確認
4	車 内	①まず車内に異常がないことを確認 ②ドアを開ける際はまず半開きにし、ドアと本体の間に異常がないか確認 ③ドアを開放したら、まず内部を目視で確認、ついでシートの下、足置きマット等を手探り点検	一気に開けない 車内全部に対し実施、特に灰皿、ダッシュボード、シートの切目、ドア付属の物入れ等は要注意
5	エンジンルーム	①ボンネットのロックを外す ②ボンネットを少し持ち上げ、異常がないか確認してから全開 ③ボンネットの隙間を点検、エンジンの周囲、エアクリナー、ウォッシュータンク等の点検	一気に開けない 蓋付のものはすべて開けて確認・点検、特にエンジン部周辺は重点的に実施
6	トランク	①エンジンルームの点検 ②目視後マットの上から軽く手探り点検 ③敷マットを取り除き内部を点検 ④予備タイヤも点検	トランク内部の物はすべて取り出しチェック タイヤハウスと本体の隙間を見落とさない
7	給油口	給油口を開け確認	一気に開けない

検方法」により実施する。このほか、自動車に爆発物を積載して事務所等に突入させる方法もあり、こうしたテロ攻撃が発生する危険性のある地域においては、コンクリート製の車止め等の大がかりな対策が必要になる。



爆弾事件に巻き込まれないためには どうしたらよいのですか？

企業関係者に加え旅行者も、直接爆弾テロの標的にされなくても、爆弾テロ事件の巻き添えになるおそれがあります。

日ごろから次のことを心がけておきましょう。

- ◇所在地における爆弾テロ事件の発生状況、発生の可能性の有無等、爆弾テロ事件に巻き込まれるおそれがないかについて、あらかじめできるだけ具体的に承知しておく。
- ◇無差別爆弾事件が発生している地域への立入りはできるだけ控える。
- ◇やむを得ず立ち入る場合にも、爆弾テロの標的となるおそれのある場所への立入りは避け、また無差別爆弾事件が多く発生している時間帯を避ける。
- ◇爆発音を聞いたら、すぐその場に伏せる。
- ◇身近で爆発事件が発生した場合、爆発現場から遠ざかる（第一の爆発をおとりにして、第二の爆発が起きる可能性がある）。
- ◇出張等で空港を利用する場合、空港のチェックイン・カウンターはしばしばテロリストの襲撃のターゲットとなっていることを念頭に置き、不必要にチェックイン・カウンターのそばに近寄らない。
- ◇爆風によりガラスが飛散し、被害を受けることがあるので、ガラスを多く使用した高層建築の下等はなるべく通行しないようにする等、日ごろから注意する。

「外務省作成の小冊子・ビデオ等」

1. 小冊子(無料配布)

- ・「海外安全 虎の巻」～海外旅行のトラブル回避マニュアル～
- ・「海外で困ったら 大使館・総領事館のできること」
- ・「海外安全情報サービス」
- ・「海外における誘拐対策Q&A」
- ・「海外における脅迫事件対策Q&A」
- ・「海外赴任者のための安全対策小読本」
- ・「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策Q&A」

2. ビデオ(無料貸出、複製実費配布)

- ・「なぜ君がかわられるのか」
- ・「海外旅行 あなたの油断(すき)教えます」
- ・「こんには領事 海外でパスポートを失ったら?」
- ・「緊急事態発生!! 紛争暴動災害あなたは生き残れますか?」
- ・「海外自由旅行あなたの備え教えます」
- ・「海外大自然旅行あなたの健康と安全マニュアル」
- ・「海外ドライブ日記」
- ・「海外旅行 あなたもターゲット! 巧妙な犯罪手口とその予防方法教えます」
- ・「熟年旅行者のための安全な海外旅行」
- ・「怪盗ガリーの日本人攻略法[アニメーション]」
- ・「領事! 出番ですよ? [アニメーションと実写映像との合成]」
- ・「自分で守る自分の安全～海外個人旅行の安全対策～」
- ・「誘拐 あなたも狙われている」
- ・「脅迫! その時、あなたは・・・」
- ・「安心アドバイスー海外赴任者のための安全対策ー」
- ・「爆弾テロ対策ーまさか自分が」の油断をチェックー」
- ・「誘拐事件が発生したら?ー日頃の準備のすすめ(企業向け)ー」
- ・「テロ対策～自らの安全を自ら守るために～」
- ・「誘拐を防ぐ～24時間の危機管理～」
- ・「ターゲットになる人・ならない人～テロから身を守るチェックリスト～」



お願い

万一、爆弾テロ事件(含未遂)の被害に遭われた場合には必ず現地の日米大使館・総領事館と連絡をとるようお願いします。大使館・総領事館においては可能な限り援助を行いますし、また、お寄せ頂いた情報は現地における邦人へのテロの脅威を評価する際参考にし、適切な対策を講じるために役立てます。なお、外務省における連絡先は次のとおりです。

外務省領事移住部邦人特別対策室

電話番号:(代表)(03)3580-3311

外務省海外安全ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/anzen/>